資料　６

2009.8.3

大学評価フォーラム「内部質保証システムの充実をめざしたアカデミック・リソースの活用」――個性ある大学づくりのために

個を「繋ぐ」リソースの活用

――新たなる学問学習共同体の形成に向けて――

京都大学高等教育研究開発推進センター
大 塚 雄 作

■どのような評価文化を共有するのか

- 大学教育に固有の評価のあり方の共有
  - 学生と教員、学生と対象との「相互作用」が基本
  - 新たなものが生み出される「創発」的特徴
- 「評価＝点数づけ」の評価観からの脱却
  - 「評価」は数値化し、序列化することではない
    ・・・「客観的」という言葉の危うさの共有
  - 「創発」をもたらす「相互作用＝繋ぐ」のための評価

2

■根拠資料を蓄積することの意味

- 根拠資料を蓄積する文化は定着も……
  - 網羅的にデータを集めればいいというものではない
    ・・・ *sampling, tracking, triangulation* の原則
  - データから複雑かつ抽象的な状況は表現しきれない
- 根拠資料は「繋ぐ」場の素材
  - 一つの資料も、多様な視点があり、見え方は異なる
  - 多様な見え方をぶつけ合う際の素材という捉え方

3

■どのような評価情報が有用なのか

- 内部の「改善」には定性的情報が有用
  - ある特有の背景や文脈（Locality）に即した情報
    ・・・ 個別の情報は量的にはまとめにくい
  - ただし、一方向的な「改善」は危ない！
    ＝ 常に相互作用しつつ「創発」を求める姿勢が重要
- 外部と繋ぐ「Accountability」は定量的表現
  - ただし、せいぜいMinimum Requirement的な部分
  - 量的に表現できる部分はかなり限定的
    ＝ その指標選択はかなり主観的 ・・・ 一種のGame

4

■ポートフォリオ評価・SOTLの考え方

- ポートフォリオ評価におけるメンターの役割
  - ポートフォリオ評価：データの蓄積とreflection
    ・・・ 英のPersonal Development Planning
    Progress Files（ポートフォリオ）に基づいて
  - メンターとの相互作用が重要な役割を果たしている
- FDにおけるSOTL概念の普及
  - SOTL ＝ Scholarship of Teaching & Learning
  - 教育・学習に関する「学識＝創発的遭遇」の共有機会
    ・・・ 教育に関わるコミュニティの一つ

5

■新たなる個性ある学問学習共同体の形成に向けて

- フンボルトの学問共同体からの脱皮
  - 根強いアカデミック・ドリフト → 大学理念の均質化
    ・・・ 数値目標ではない独自の目標の共有
  - ユニバーサル段階に適合した大学
    ・・・ 研究・教育をバランスした方向性の共有
- 「繋ぐ」場を保障するネットワーク形成と評価
  - わが国の風土、各大学の状況に合った「繋ぐ」場の模索
  - 比較的コンパクトな質的情報の共有と相互評価
    → Institutional Web Portfolio などの利用の可能性